

2019年2月3日（日）

主 題：「お父さんを知っていますか」

ー信仰と行いー

テキスト：ヤコブの手紙 2章21-24節

### はじめに

- ・皆さん！世の中、「お手本のような人」という人が、たまにおられますね。  
人間的に、人格的に、人のお手本になるような方です。逆に、お手本にはならない人もいます。人のお手本になるとは、大変なことです。なぜなら、その人は言動において、責められるところがない人だからです。当然、人格的にも優れている方でしょう。
- ・皆さんに、もし子どもさんがいるとしましょう。父親であるあなたは、自分の子どもに、「**私に倣う者となきなさい**」と声を大にして言うことができるでしょうか。もし、そのような方がおられるならば、かなり立派な方でしょうね。一般的に、「**私に倣う者となきなさい**」とは、なかなか言えないものです。なぜなら、自分はお手本になるような存在ではないこと、自分が一番知っているからです。  
ですから、「お父さんを見ないでね」と言うのです。
- ・しかし、パウロは次のように言いました。「**ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私に倣う者となってください。**」（1コリント4：16）  
当時のユダヤ社会では、師についた弟子は、いつも師の側にいて、師の言動をよく観察して倣うものでした。ですからパウロの側にいた弟子たちは、師であるパウロの言葉をもらさず聞いていました。
- ・聖書を読むと、パウロは偉大な伝道者でしたが、人間的にはお手本となる人ではなかったように思える箇所もないわけではありません。たとえば、非常に短気で怒りやすい性格であったと言われます。しかし、そのパウロが「**私に倣う者となってください。**」と言いました。それはどんな意味であったのでしょうか。
- ・私はパウロが「**私に倣う者となってください。**」と言った背景は、決して優れた自分を倣うように、と言ったのではないと思います。彼には弱さもありました。失敗もありました。模本的な姿とは決して言えないような時もありました。そのパウロが「**私に倣う者となってください。**」言った背景には、優れた人物としてのパウロだけでなく、人間的弱さや失敗を犯した人間パウロがあったと思います。
- ・そのような弱さを正直に認め、弱さをかかえたままの「生き方」を倣うように、という意味ではないかと思います。それが神を信じる人の姿であります。  
ユダヤ人にとっての父祖はアブラハムです。アブラハムは「神の友」、「信仰の父」、と呼ばれました。ヤコブはこう言いました。  
**2:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認められたではありませんか。**

2:22 あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行ないとともに働いたのであり、信仰は行ないによって全うされ、

2:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

- ・しかし、そのアブラハムも完全で模本的な人ではありませんでした。彼にも弱さ、失敗がありました。しかし、それでも神はアブラハムを高く評価されました。そして彼は、神を信じるすべての者の父祖（お父さん）となりました。いかがでしょうか。

⇒ あなたは、その「お父さんを知っていますか」

- ・今日、私は次の2点から学びたいと思います。

### 大切なポイント

#### 1. 私たちの父アブラハム

- ・ヤコブはこの書簡をユダヤ人信徒に対し、「私たちの父アブラハム」と書きました。これはユダヤ人たちが、昔も今も使っている慣用語です。パウロもまた、同じように次のように言いました。ローマ人への手紙
- ・4:16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。
- 4:17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。
- ・ガラテヤ人への手紙3章を開いてください。
- 3:7 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。
- 3:29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。
- ・ヤコブはアブラハムを次のように述べました。
- ・2:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認められたではありませんか。
  - ・この文章もまた、修辭的疑問文です。⇒「そのとおりである」という答えを想定した疑問文です。ここでヤコブが語っていることは、「信仰により、恵みによって救われる」という教理と矛盾しているのでしょうか。そうではありません。すでに見てきたように、ヤコブは救いに至る信仰は行いによって証明されるという真理を繰り返し述べているのです。
  - ・ヤコブが言いたい論点は、次のポイントです。

#### 2. 父アブラハムの信仰と行い

## 1) アブラハムは信仰によって義とされた

15:6 彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。創世記

ここでは、アブラハムは信仰だけで義とされたとあります。

これはその前の聖句を受けて、言われたことばでした。

15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」

- ・ご存じのように、妻サラは不妊の女性でした。人間的に考えれば、まず信じられません。しかしアブラハムは神のことばを信じ受け入れたのでした。信仰とは、じつに単純なことです。神のことばを素直に受け入れることです。
- ・私たちは受胎告知を受けたマリアも、同じようでした。ルカ 1 章  
1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。
- ・私たちにとっても、信じ受け入れることは決して簡単なことではありません。しかし、繰り返しますが、信仰とは単純に信じ受け入れることで十分なのです。神はアブラハム・ストーリーを通して、私たちに信仰について教えてくださっています。それは次のストーリーです。

## 2) アブラハムは信仰が試された (アドナイ・イルエ)

### ・創世記 22 章

- 22:1 これらの出来事の後、神はアブラハムを試練に合わせられた。神は彼に、「アブラハムよ。」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります。」と答えた。
- 22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」
- 22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、ふたりの若い者と息子イサクとをいっしょに連れて行った。彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ出かけて行った。
- ・皆さん。イサクはアブラハムにとって大切な一人子でした。不妊の妻であったサラに、約束の子として与えられ子がイサクでした。たいへん貴重な宝のような男の子でした。神は「全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」と命じられました。私たちの考えでは、これは常識を逸脱した、まず考えられない要求でした。アブラハムにとって大きなチャレンジでした。
  - ・皆さん。もしイサクが全焼のけにえとなるならば、子孫が天の星の数のようになるという約束は成就しません。アブラハムの家系は、それで絶えてしまい後は続かないことになります。アブラハムは、真に神のことばを信じることが問われたのでした。
  - ・私たちには結果はすでに分かっていますから、それほど緊張感を覚えないかも知れませんが、アブラハムにとっては、真剣なことでした。じつはこれが信仰というものです。しかし神は、すでに備えておられました。

22:9 ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた。

22:10 アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

22:11 そのとき、主の使いが天から彼を呼び、「アブラハム。アブラハム。」と仰せられた。彼は答えた。「はい。ここにおります。」

22:12 御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。

22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある。」と言い伝えられている。

- ここに神を信じる者の祝福があります。創世記 15 章でアブラハムは、主のおことばを信じ受け入れました。そしてその時「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(15:6) のでした。神の前に義とされたアブラハムは、その「行い」によって、義が実現しました。結果、彼は「神の友」と呼ばれました。

2:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

- イエスも「主の祈り」を教えられたとき、次のように言われました。

#### マタイ福音書

6:8 あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。

- 信仰とは、神のことばを信頼し受け止めることです。それは突然できることではなく、むしろ訓練されて習得していくことです。神がくださる結論を先取りし、信頼し、受け止めることが信仰です。
- 皆さん。ここで大切なことがあります。それは神の祝福を手中にする秘訣があることです。アブラハム、マリア、また多数の信仰の先人たちが皆経験した共通項です。それは、「主の山の上」(神の臨在される所)にいたことです。神のことばを聞き、従順に受け入れたことです。そこが「アドナイ・イルエ」と呼ばれる所です。神の声を聞かずに、自分勝手に進むことはありません。彼らは神のみことばを聞き、それに応答した聖徒たちでした。
- 私たちは今、日々デイボーションという貴重な時を通して、聖書から神のみことばを聴くことができます。まず、神のみことばを聞くことが大切です。神のみことばは今日も生きており、私たちに語りかけてくださいます。

#### 詩篇 119 篇

119:129 あなたのさとしは奇しく、それゆえ、私のたましいはそれを守ります。

119:130 みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまのない者に悟りを与えます。

この聖句は、神の慈しみを経験した人の詩です。私たちも今日、神からみことばをいただき、そして力と励ましをいただくことができます。

- ・話をヤコブの手紙に戻しましょう。

アブラハムには信仰がありました。その信仰が、イサクを捧げるという行いによって、より成長し、強められ、完全に近いものとなっていきました。ですからアブラハムはユダヤ人だけでなく、信仰をもつ全人類の聖徒にとって「信仰の父」となったのです。信仰と行いは、切り離せないものであることがお分かりでしょう。

## ま と め

主 題：「お父さんを知っていますか」

ー信仰と行いー

- ・今日、私たちは「お父さんを知っていますか」という主題で、主の御声を聞くことができました。お父さんとは、信仰の父であるアブラハムです。

アブラハムはじつに偉大な信仰の父祖です。信仰とは、どういうものであるか、みことばから聞くことができました。最後に次のみことばをお読みします。

2:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

2:24 人は行ないによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。

\* God bless you!